

1. 岐阜県 2. 静岡県 3. 長野県 4. 山梨県

1. 琵琶湖の周辺や下流の大阪府・京都府南部は、いずれも人口密度が低い地域に分類される。

2. 琵琶湖の水を利用している人の割合は、水源がある滋賀県内よりも、下流にある大阪府の方が高い。

3. 琵琶湖の水は工業専用の用水であり、滋賀県内でも飲み水として利用されることはない。

4. 京都府において琵琶湖の水を利用している人の割合は人口の約3割にとどまり、依存度は低い。

1. 北部の海岸線付近が最も標高が低く、南部に向かうにつれて急激に標高が上がり、大阪湾付近で最高峰に達する形状

2. 全域にわたって標高の起伏がほとんど見られず、北部の海岸線から南部まで広大な平野が続いている形状

3. 北部に標高約900mに達する丹波高地や六甲山地があり、南部の大阪湾沿岸に向かって標高が低くなり平野が広がる形状

4. 中央部に巨大な盆地が広がり、その周囲を標高2000mを超える険しい山脈が取り囲んでいる形状

1. 標高の高い山地が広大な面積を占めているため、人々は山頂付近に大規模な都市を建設し、生活の拠点としてきた
2. 大阪湾沿岸部は非常に標高が高い崖になっているため、港を建設することができず、内陸の盆地を中心に貿易が行われた
3. 丹波高地から大阪平野にかけて標高差がまったくないため、河川の氾濫を防ぐための大規模な堤防が必要なかった
4. 六甲山地などの山地と海に挟まれた平地が限られているため、海岸線を埋め立てて都市機能や港湾を拡張させてきた

1. 人口密度が高く、昼夜間人口比率が100%を超えており、昼間の人口が夜間の人口を上回っている。

2. 昼夜間人口比率がちょうど100%であり、地域内での労働力と居住者のバランスが完全に一致している。

3. 人口密度が低く、農業・漁業の生産量が他地域に比べて極めて高い傾向にある。

4. 人口密度は高いものの、昼夜間人口比率は100%を下回っており、多くの住民が府外へ通勤している。

1. 第3次産業 2. 第2次産業 3. 第1次産業 4. 第4次産業

1. 都市部での生活排水を農業用水として再利用し、生産コストを下げるため	2. 大都市周辺は地価が非常に安く、広大な農地を確保しやすいため	3. すべての作業を大規模な機械で行うことで、人件費を削減するため	4. 輸送距離が短いため、傷みやすい野菜を新鮮な状態で市場へ届けられるから
--------------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------

1. 老年人口の増加よりも年少人口の減少が緩やかなため、少子化が改善に向かう。
2. 生産年齢人口と年少人口がともに減少し、老年人口のみが増加する。
3. 総人口の減少に伴い、年少・生産年齢・老年すべての区分が減少する。
4. 年少人口と老年人口がどちらも増加することで、総人口の減少が相殺される。

1. 明治時代に茶の輸出で発展した清水港を持ち、富士山の麓に広がる牧の原台地での茶の栽培が有名である。
2. 日本最大の半島である紀伊半島の南側に位置し、黒潮の影響で温暖なため、みかんなどの果樹栽培が非常に盛んである。
3. 中京工業地帯の中心地として知られ、自動車産業の集積地であるとともに、日本で最も人口が多い県の一つである。
4. 中部地方と近畿地方の両方の結びつきが強く、リアス海岸が発達した志摩半島で真珠の養殖が盛んである。

1. 京都府は宿泊・飲食サービスの売上高の割合が高く、兵庫県は製造業出荷額や畜産業の産出額が大きい
2. 京都府と兵庫県はともに農業産出額において米が占める割合が最も高く、製造業の出荷額を上回る主要産業となっている
3. 兵庫県は伝統的な地場産業と観光に伴う宿泊業が中心であり、京都府は重化学工業による製造業出荷額が極めて大きい
4. 兵庫県は内陸部での先端技術産業と観光業が主であり、京都府は臨海部での大規模な重化学工業が産業の柱となっている

1. 熊本県 2. 静岡県 3. 愛媛県 4. 和歌山県

(2018年 熊本県公立入試 類似)

1. マグロやカツオ 2. カキやノリ 3. 昆布やホタテ 4. 真珠やタイ

答え合わせ・解説

問1	答え 1 岐阜県	岐阜県は中部地方に位置していますが、近畿地方の滋賀県や三重県と境界を接しています。特に滋賀県との間には伊吹山地がありますが、古くから関ヶ原などを通じて交通の要所となってきました。また、三重県、愛知県とともに中京工業地帯を形成している点でも、隣接する県とのつながりが非常に強いのが特徴です。
問2	答え 2 琵琶湖の水を利用している人の割合は、水源がある滋賀県内よりも、下流にある大阪府の方が高い。	2019年の統計データによれば、琵琶湖の水を利用している人の割合は滋賀県で84.8%であるのに対し、下流の大阪府では99.6%に達しています。このように、水源地である滋賀県以上に下流の大阪府での依存度が高いことが特徴です。また、琵琶湖周辺や大阪府、京都府南部には人口密度が2,000人/km ² を超える地域が集中しており、多くの人々の生活を支える「近畿の水がめ」として、厳しい水質管理が求められる背景となっています。
問3	答え 3 北部に標高約900mに達する丹波高地や六甲山地があり、南部の大阪湾沿岸に向かって標高が低くなり平野が広がる形状	近畿地方の兵庫県北部から大阪湾にかけては、北側に丹波高地や六甲山地などの山地が位置しており、そこから南下するにつれて大阪平野へと標高が下がっていく地形的特徴があります。地形の断面図を見ると、北側に鋭い山頂が確認され、南側の海沿いに向かってなだらかに標高が低くなる形状を示します。
問4	答え 4 六甲山地などの山地と海に挟まれた平地が限られているため、海岸線を埋め立てて都市機能や港湾を拡張させてきた	兵庫県南部、特に神戸周辺では六甲山地が海の間近まで迫っており、居住や産業に利用できる平地が非常に限られています。そのため、山を削った土砂で海を埋め立て、ポートアイランドのような人工島や公共施設を整備することで、限られた土地を有効に活用して都市を発展させてきた歴史があります。
問5	答え 1 人口密度が高く、昼夜間人口比率が100%を超えており、昼間の人口が夜間の人口を上回っている。	大阪府のような大都市では、オフィスビルや官公庁、大学などが集中する「中心業務地区」としての機能を持っています。人口密度が1平方キロメートルあたり500人を超える過密状態でありながら、さらに昼間には周辺のベッドタウンから労働力や学生が流入するため、昼夜間人口比率は必ず100%を超えます。これに対し、周辺の住宅都市（ベッドタウン）では、夜間人口の方が多くなるため比率は100%を下回るのが一般的です。
問6	答え 1 第3次産業	日本の産業は、自然界から資源を採取する農業や林業などの第1次産業、それらを加工する製造業や建設業などの第2次産業、そして形のないサービスや情報の提供を行う第3次産業に大別されます。情報通信業は、情報という無形の付加価値を扱うため、サービス業や小売業と同じ第3次産業の主要な構成要素となっています。
問7	答え 4 輸送距離が短いため、傷みやすい野菜を新鮮な状態で市場へ届けられるから	みずなのような葉物野菜や伝統野菜は、鮮度の低下が早いいため、消費地である大都市の近くで生産することが合理的です。大都市の近くであれば、市場への出荷にかかる時間が短く、消費者のニーズに合わせた新鮮な野菜を供給できるため、近畿地方などでは古くからこの形態の農業が発達してきました。
問8	答え 2 生産年齢人口と年少人口がともに減少し、老年人口のみが増加する。	滋賀県の人口構成の推計では、15歳から64歳の生産年齢人口と0歳から14歳の年少人口は一貫して減少傾向にあります。対照的に65歳以上の老年人口は増加を続け、2045年には老年人口が年少人口の約2.7倍という極めて高い水準に達することが予測されており、労働力不足や高齢者支援のあり方が今後の重要な論点となります。
問9	答え 4 中部地方と近畿地方の両方の結びつきが強く、リアス海岸が発達した志摩半島で真珠の養殖が盛んである。	伊勢志摩サミットが開催された三重県は、伊勢湾に面し、南部には複雑な海岸線を持つリアス海岸の志摩半島が広がっています。この地形を利用した真珠の養殖は世界的に有名です。また、三重県は近畿地方に含まれますが、中京工業地帯の一角をなすなど、愛知県を中心とする中部地方との経済的交流が非常に盛んな点も特徴です。
問10	答え 1 京都府は宿泊・飲食サービスの売上高の割合が高く、兵庫県は製造業出荷額や畜産業の産出額が大きい	京都府は京都市を中心に多くの歴史的建造物があり、国内外から多くの観光客が訪れるため、宿泊・飲食サービスの売上高が他の府県に比べて突出しているのが特徴です。一方、兵庫県は阪神工業地帯や播磨工業地域を含み、鉄鋼や造船といった重化学工業が発達しているため、製造業出荷額が大きくなります。また、兵庫県は「但馬牛」に代表されるブランド畜産が盛んであり、農業産出額に占める畜産の割合が高いことも重要な特色です。
問11	答え 4 和歌山県	紀伊半島の南側に位置する和歌山県は、古くからミカン栽培が盛んな地域です。統計上、愛媛県や静岡県といった他の名産地を抑えて収穫量全国1位を維持しています。この地域は黒潮（日本海流）の影響を受けるため、冬でも比較的温かいことが栽培に適した要因となっています。
問12	答え 4 真珠やタイ	三重県の志摩半島は、波が穏やかな内湾という地形的利点を活かして、古くから真珠の養殖が盛んに行われてきました。また、近年ではタイなどの魚類の養殖も広く行われています。選択肢にある昆布やホタテは、主に北海道などの寒冷な海域で行われる養殖の代表例であり、地域の特性が異なります。